

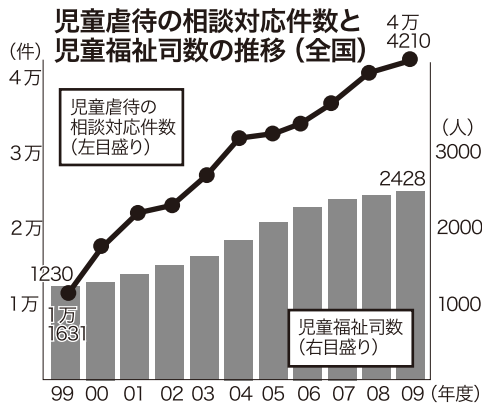
なぜ福岡市で児童虐待が くり返されるのか

日本共産党
福岡市議団



子ども総合相談センターへの調査をもとに質問

9月議会 ひえじま市議が原因・対策の根本に迫る



ひえじま市議は、事件がくり返されることについて市長の責任を追及するとともに、福岡市でなぜ反省が生かされずくり返されるのかと問い、虐待対応にあたる児童福祉司が少なく、1人で10件も受け持つ実態を告発しました。

さらに、職員の異動が

9月13日、ひえじま俊和市議（博多区選出）は、福岡市議会本会議で一般質問に立ち、市の児童虐待対策についてたどりました。

激増する児童虐待

児童福祉司を大幅に増やせ

ひえじま市議は、全国で児童虐待事件が激増し、福岡市でも前年度比45%増、過去最多となり、昨年度は6人の子どもが亡くなっている事実を指摘。本市の虐待を受けた子どもたちの背景調査を示して、その根本には社会的貧困があるのではないかとたどりました。

●市長「重く受け止める」

●局長「市子ども総合相談センター体制の充実、能力向上に努めたい」

激しく経験年数が浅いままに事件に対応している現状を批判。博多区での虐待死の分析調査をもとに、虐待に気づく能力を向上させる方策を提案しました。

市長はひえじま市議の追及に対し「重く受け止めた」と答弁。「体制充実、能力向上に努めたい」（子ども未来局長）との市の答弁を得ました。

ひえじま市議は、虐待防止策として保育園、学校、保健所、病院などのネットワークをつくることの重要性をのべ、今ある地域協議会を職員体制を強化して校区ごとに開くことを提案しました。